

---

---

## 第3回CAUA合同研究分科会総評

---

---

CAUA運営委員長（群馬大学）

金森 吉成

研究会の参加者は100名以上となり大変盛況であった。私が聞いた講演を基に感想を述べたい。

基調講演では、東京大学情報基盤センターの安東先生が「東京大学教育用計算機システムの更新と今後の計算センターの在り方」の課題でお話しをされた。安東先生は毎回、大学の計算センターの抱える話題性の富む課題について明快に述べられるので、いつも聴衆が話に引き込まれる。今回も9月25日に新聞等で報道された「東大がMacを採用した」の真相を聴衆者は大変興味深く、かつ面白く(?)聞くことができた。日本で最大規模の東大教育用計算機センターの運営に当り生じる課題とその対処法をわかりやすく述べられた。一方、このような大規模システムの機種選定のための仕様書策定にかかる手間と時間はどれくらいになるものだろうかと別の興味が湧いてきた。

センター運用分科会で麗澤大学情報システムセンターの牧野先生から「学内システム移行時の諸問題」の講演があった。この講演はシステム変更に伴ない生じる課題の一つ、メールシステムの変更を取り挙げたものである。大部分の大学ではシステム変更において、始めから無視してしまいような課題を、利用者の立場に立って懇切丁寧なサービスを提供しようとするセンター運用方針に大変感銘を受けた。

図書館分科会では、インフォコム(株)の大川氏から「電子図書館システムの動向」について講演を戴いた。私は、XML技術が電子図書館でどれくらい実用化されているか

に興味を持っていたので、稼働システムなどの技術動向を知る良い機会となった。

また、センター運用分科会では、東京大学生産技術研究所の林先生から無線LANシステムの講演があったが図書館分科会に出席したために、最後の一部分のみしか聞くことができなく、残念であった。

今回のCAUA合同研究分科会プログラムは、時期を得た課題選定やその講演時間帯を考えて良く構成されていたように思う。運営委員会としては、CAUAの更なる発展のためにも参加者からのご意見を賜り、それを積極的に運営に反映させていきたいと思う。

最後に、毎回のことではあるが研究分科会開催にあたり事務局の方々から戴くご協力、ご努力に深く感謝したい。